

19. 進行性筋ジストロフィー症の 長時間心電図記録法による検討

国立療養所西別府病院

西原重剛 三吉野産治

中嶋俊郎 (西別府)

矢永尚士 (九大温研)

〔目的〕

我々は、昨年来、Holter の Avionics system による24時間連続心電図記録法により Duchenne 型ジストロフィーについて検討してきた。

〔方法〕

心電図記録用ポータブル・テープレコーダーに24時間連続記録し、Electrocardioscanner を用い、再生テープの送り速度を60倍にして観察し、必要な部分は通常のテープの送り速度で、直記式心電計を用いて再生記録した。対象は本院入院中の Duchenne 型PMD 49名である。

〔結果〕

24時間中の最高脈拍数より最小脈拍数を差引いた値を脈拍日差として、Bed patient 群と歩行可能群+車椅子群とで比較すると、表1.に示す如く、明らかに Bed patient 群の方が大であり一般的にいわれる頻脈と言うよりも Labile sinus tachycardia ないしは tachycardia and bradycardia syndrome の範ちゅうにはいるもので、必ずしも心不全のみに原因を求めることはできず、長時間観察する必要があると思われる。

また、表2.に示す如く、本疾患における DeepQ 波は、日内変動が強く信頼性は低いと思われ ST・T変化の安定性に比べ対照をなした。著明な心位置異常、回転異常、瘦せなどのために、体位変換等で容易に変動しうるものと思われた。

イ) Bed patient 群	60.1 ± 17.3
ロ) 車椅子群+歩行不能群	44.5 ± 8.9
	(P < 0.02)

表1. 脈拍日差

1.深いQ波を示した症例	8 / 26 例
2. STが 0.5 mV以上の変動を示した例	4 / 8 例
3. STが 0.2 ~ 0.5 mV の変動を示した例	3 / 8 例

表2. 長時間心電図にみられた異常

また、本症の刺激伝導系の問題については表3に示す如くで、PQ短縮例2例、完全房室ブロック1例、simis arrest with multiple atrial escape rhythm 3例、Junctional escape rhythm 2例、先のLabile sinus tachycardia を合わせると刺激伝導系異常を示すものも多く

みられ、これら不整脈の経時的变化を追うことは興味あるものと思われる。期外収縮及び脚ブロック等は比較的短時間の心電図記録でも容易に把握できるが、洞結節の機能及び上室性不整脈の検討には深夜を含む長時間の記録が必須で、また後者の方が生体に及ぼす影響も大であると考えられる。

1. P Q短縮例	2 例
2. 完全房室ブロック例	1 例
3. sinus arrest with multiple atrial escape rhythm	3 例
4. Junctional escape rhythm	2 例
5. Labile sinus tachycardia	—

表3. 長時間心電図にみられた異常

〔ま と め〕

- 1) 脈拍日差は障害度により差がある。
- 2) 本症にみられる頻脈は、Labile tachycardia、或は徐脈・頻度症候群のなかに入るものと思われる。
- 3) deepQ 波は日内変動が強い。
- 4) 長時間心電図記録により刺激伝導系の何等かの異常を示すものが多くみられた。

20. UCG及び超音波断層法による Duchenne 型PMDの心機能の検討

国立療養所西別府病院

西原重剛 三吉野産治
中嶋俊郎 (西別府)
矢永尚士(九大温研)

Duchenne 型PMDの左心機能の低下については、近来その研究報告が相次いでいる。我々は東芝高速心臓断層装置SSL-53Hを使用し、本院入院中の患児31例について心機能を測定した。

本装置では心内構造とその動きが全体として real time で観察され、僧帽弁、大動脈弁、腱索なども詳細にみることができる。また channel の切換えで同時に one dimension の通常のUCGも記録可能である。PMDの年長児では、一般に肺気腫、胸廓変形、痩せのために、通常の部位での左室収縮期径(以下Ds)及び左室拡張期径(以下Dd)の測定が困難であり、誤差

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

〔目的〕

我々は、昨年来、Holter の Avionics system による 24 時間連続心電図記録法により Duchenne 型ジストロフィーについて検討してきた。